

令和4年度 本宮市総合教育会議会議録

1 日 時 令和5年1月26日(木) 午後2時30分～午後4時20分

2 場 所 本宮市役所 3階 大会議室

3 出席者	市 長	高 松 義 行
	教 育 長	松 井 義 孝
	教育長職務代理者	谷 明 子
	委 員	渡 辺 俊 之
	委 員	古 宮 博 文
	委 員	遠 藤 傳 一 郎

4 事務局職員	総務政策部長	荒 川 貞 伸
	政策推進課長	石 橋 淳
	政策推進課政策推進係長	武 藤 正 昭
	教育部長	菅 野 安 彦
	教育部次長兼生涯学習センター長	根 本 享 史
	教育部次長兼幼保学校課長	川 名 美 和 子
	参事兼白沢公民館長兼歴史民俗資料館長	鈴 木 雅 文
	参事兼教育総務課長	安 藤 守
	国際交流課長	鈴 木 哲 史
	教育総務課副主幹兼総務係長	野 内 千 恵

5 傍 聴 人 なし

6 協 議 事 項

(1) 教育施設の改修について

①本宮市歴史民俗資料館の今後の活用方針について

②白沢ふれあい文化ホール改修について

③学校等施設の整備について

(2) 奨学金制度について

(3) 英国との交流事業について

7 審 議 経 過

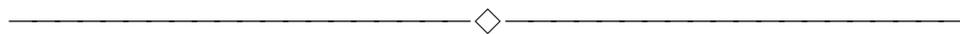
【午後2時30分開会】

◇市長 [あいさつ]

【協議事項】(要綱により市長が進行)

◇市長 本宮市歴史民俗資料館の今後の活用方針及び関連するしらさわカルチャーセンターの改修について事務局の説明を求める。

- ◇事務局 [本宮市歴史民俗資料館の今後の活用方針及び関連するしらさわカルチャーセンターの改修について説明]
- ◇市長 本宮市歴史民俗資料館の今後の活用方針及び関連するしらさわカルチャーセンターの改修について意見を求める。
- ◇古宮委員 歴史民俗資料館については、教育委員会でも議論してきたが、解体もやむを得ないのではないかという意見も出されたことがある。必ず残さなくてはいけないという考えではなく、耐震化の可否や耐震補強実施設計費の結果が出てから、費用対効果も勘案しながら、検討していく必要があるのではないか。
- ◇遠藤委員 歴史民俗資料館は、宿場町としての歴史を持つ本宮市を表す価値ある建造物であり、必要なものだと考える。しらさわカルチャーセンターへ収蔵物を移すことで生じるスペースについて、有効に活用していければいいと思う。
- ◇谷教育長職務代理者 現在展示してある土器などが、市民の方の目に触れる機会が少ないのではないかと思う。展示してあるものを生活の中に溶け込ませるという観点から、市民の方が多く利用する中央公民館などの一角に展示し、見てもらうという方法も考えられる。歴史民俗資料館の敷地は、本宮駅から近く立地条件も良い所であるため、別な用途での利用方法も検討すべきだと考える。
- ◇渡辺委員 現在の歴史民俗資料館は入りづらい所にあるため、来館する人が少ないのではと考える。中央公民館の図書室に隣接する場所に収蔵物を展示し、見てもらうということも検討すべきである。
- ◇古宮委員 歴史民俗資料館を移転するとすれば、旧第1保育所跡地に建設してはいかがか。1階を駐車場にすれば、現在の駐車スペースも確保でき、みずいる公園に集まる方々を施設に誘導できると思う。
- ◇市長 歴史民俗資料館の活用方法については、様々な意見があると思われる。議論するためには、耐震化の可否や耐震補強の費用といった情報が必要である。まずは専門の事業者に見てもらう必要があると考えるがどうか。
- ◇谷教育長職務代理者 費用対効果を考えることは、歴史民俗資料館として残すかどうかを判断する上で重要なことである。耐震調査を行う必要があると考える。
- ◇市長 現在の建物を歴史民俗資料館として残すという考えのみではなく、ギャラリーや会議室、カフェなど別な用途として活用するという考えも必要である。様々な選択肢があるなかで、方針が決まるまでは、歴史民俗資料館として活用する必要がある。
- ◇渡辺委員 入りづらいという問題はあるが立地条件は良いので、カフェなど街中に活気が生まれる活用方法が良いと思う。
- ◇市長 まずは耐震調査を行い、結果を踏まえながら今後の活用方針を引き続き検討していく必要がある。どのように活用するにしても費用はかかるため、費用の面も考えていかなければいけない。



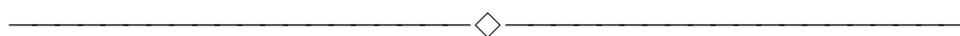
- ◇市長 白沢ふれあい文化ホール改修について事務局の説明を求める。
- ◇事務局 [白沢ふれあい文化ホール改修について説明]
- ◇市長 現在、しらさわカルチャーセンターと白沢ふれあい文化ホールという同じような名称となっている。養蚕の展示物をしらさわカルチャーセンターへ移すことで、文化ホールを美術館として活用できないかという考えであるがどうか。
- ◇遠藤委員 しらさわカルチャーセンターは、歴史公文書館のような名称が良いのではないかと思う。市民が美術に触れることは大切なことであり、文化ホールを美術館化することは良いことと考える。

◇渡辺委員 公文書館や美術館などわかりやすい名称に整理した方が、利用する方も良いのではないかと考える。

◇市長 白沢ふれあい文化ホールの美術館化については、今後も引き続き検討していくこととしたい。なお、以前多くの方に見て頂いた「からくり人形」を、しらさわカルチャーセンターへ展示する案を検討しているがいかがか。

◇谷教育長職務代理者 英国自動人形展を何度か見させて頂いたが、とても面白く価値のあるものだと感じた。ただ、メンテナンスが大変であるという話を聞いたことがあるため、そうした問題を解決できれば良いと思う。

◇遠藤委員 私も人形展を見させて頂いたが、英国との交流を行っている本宮市にとって、展示する価値のあるとても魅力的なものだと感じた。

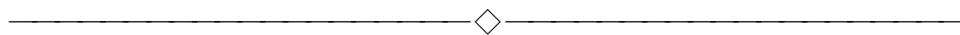


◇市長 学校等施設の整備について事務局の説明を求める。

◇事務局 [学校等施設の整備について説明]

◇市長 議論を深めるためには、令和5年度から何年度までに金額も含めどのように整備するのかを示す必要がある。教育施設等整備事業基金を活用しながら今まで様々な施設を整備してきたが、残高が少なくなってきた。教育に関する施設であるため、質が低いものは作りたくないと考えているが、こうした現状を教育委員の皆さんと共有していく必要があると考える。

◇遠藤委員 各教育施設の現状と長期的な計画を確認しながら、優先順位をつけていく必要があると考える。各学校のプールの老朽化についても考える必要があり、例えば各中学校区に1つのプールを整備するという考え方もあり得るのではと思う。



◇市長 奨学金制度について事務局の説明を求める。

◇事務局 [奨学金制度について説明]

◇市長 奨学金制度について意見を求める。

◇古宮委員 遠藤輝雄奨学金については、減免制度を検討してはどうかと考える。例えば奨学金を利用し本宮市から一度離れた方が、本宮市へ戻ってきた場合に減免をすると、定住促進の観点からも有効な制度となるのではないかと思う。

◇市長 今年度に奨学金制度を変えることは、制度を利用する方が混乱してしまうため、来年度の6月から9月議会に向けて検討していければと考える。

◇谷教育長職務代理者 給付型についてはいずれ基金が枯渇することとなるため、例えば市民の方の寄付やふるさと納税を充てるなどして、継続できるような仕組みづくりが必要だと考える。また、周知の方法として、他市町村では中学・高校3年生にチラシを配っているという話を聞いたことがあるため、本宮市でも検討する必要がある。

◇遠藤委員 所得制限が厳しいと利用する方も減ってしまうため、見直しが必要だと考える。

◇市長 奨学金制度の見直し案を議会へ提案する前に、何度か事前協議が必要だと考える。早めに協議ができるよう進めて頂きたい。なお、給付型制度では現在1万円を給付しているが、金額についてはいかがか。

◇渡辺委員 月1万円でも給付してもらえるのはとても助かるが、いろいろと費用がかかるため、増額を検討する必要があると思う。増額されれば申込者も増えてくるのではないか。

- ◇古宮委員 現在の金額はあまり魅力的ではなく、事務手続きも煩雑であるため申込者が少ないのだと思う。金額を増やすことは必要だと考える。
- ◇谷教育長職務代理者 給付型と貸与型を併用すると最大5万円支援を受けることができるため、給付型は1万円を維持し、貸与型は所得制限をなくすという方法や、貸与型を利用した方が本宮市に定住した場合は減免するというように、貸与型制度の見直しも検討すべきではないか。
- ◇市長 給付額はとても重要であり難しい問題である。給付型は資源に限りがあるため、継続できる制度とするために、例えば先ほど古宮委員が提案したような、本宮市に定住した方は給付額を増額し、定住していない方は貸与型とする条件を付すなど、新しい仕組みを検討していく必要がある。



- ◇市長 英国との交流事業について事務局の説明を求める。
- ◇事務局 [英国との交流事業について説明]
- ◇市長 英国との交流事業について意見を求める。
- ◇谷教育長職務代理者 英国を訪問した中学生は、将来に向けて得るものが多く、とても意義のある事業だと考えるが、すべての生徒を連れていくことはできないため、参加していない生徒達に、どのように中学校が英国との交流の意義を意識付けしていくのかが重要だと思う。
- ◇市長 谷委員が話した内容が、英国との交流事業の中で重要な問題と認識している。全生徒が英国との交流を体験できるように、ダヴェナント・ファウンデーション・スクールやホランドパーク・スクールとのオンライン交流等を進めていかなければいけないと考えている。また、中学校の先生方の関わり方も重要だと認識している。
- ◇遠藤委員 英国との交流事業について、長期的な計画が必要ではないかと思う。生徒の国際感覚や英語力の向上を図るためには、長期間事業を行っていかなければいけない。また、交流事業の際に、ホームステイを試みるのも面白いと思う。
- ◇市長 今年度、ダヴェナント・ファウンデーション・スクールの生徒を招待した。農家民宿やホームステイも検討したが、初めての来市であったため実施できなかった。また、7月頃の英国は、サマーバケーションで生徒が家にいないことが多く、一方、秋ごろは本宮市側の生徒が授業を休まなければいけないため、ホームステイの調整が難しいところがある。ホームステイをする意義は大きいと感じているので、今後も実施に向け検討していきたい。
- ◇渡辺委員 英国との交流事業は、生徒たちの得るものが非常に多いのではと感じている。事業を今後も継続していくべきと考える。
- ◇市長 訪英した生徒達が、行かなかった生徒達にどのように伝えていくのかを含め、訪英していない生徒に異文化に興味を持ってもらう仕掛けを中学校で行えるようにしていく必要がある。英国との交流が、本宮市の教育の特色の1つとし、訪英した生徒の全体報告会を行うなど、様々な方法を検討していく必要がある。また、双葉町が英国との交流を行うこととなった。今後、双葉町の生徒との交流も検討していければと考えている。



- ◇市長 協議を終了する。
- 【協議終了】**



**【午後4時20分閉会】**